

# 営農情報（水稻・大豆）

～麦わらのすき込みについて～

令和6年5月16日  
福岡大城農業協同組合  
南筑後・久留米普及指導センター

麦わらは土づくりに重要な有機質資源です。わらをすき込んで水稻・大豆の収量向上を目指しましょう！

## （1）わらすき込みの効果

わらすき込みを繰り返すことで、

- ① 腐植の低下を緩和し、地力を維持できます。
- ② 土が軟らかくなり、作物の根が伸長しやすくなり、生育が良好になります。
- ③ 土の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できます。

※「腐植」とは、土壤に含まれる有機物のこと。土づくりのための一つの指標であり、腐植によって土壤の物理性、化学性、生物性を良好にすることができます。

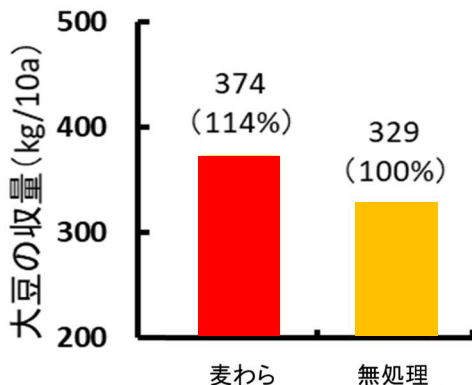


図 麦わらの5年間連用が大豆の収量に及ぼす影響  
※大豆-麦の作付体系（福岡県農林業総合試験場）

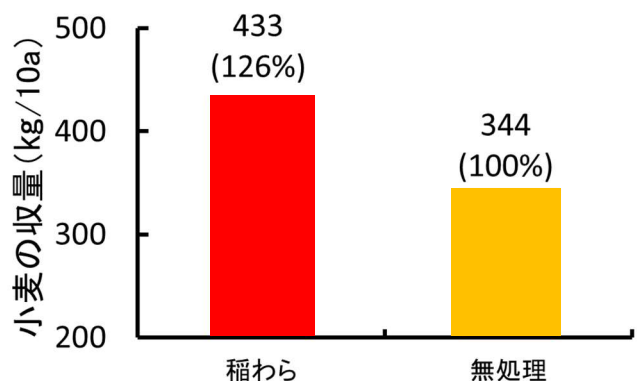


図 稲わらの19年間連用が小麦の収量に及ぼす影響  
※水稻-小麦の作付体系（岡山県立農業試験場）

## （2）麦わらすき込みの方法

### 【水稻作前の場合】

- ① 代かき時の麦わらの浮き上がりを減らすため、麦わらを20cm程度の「長めにカット」し、ほ場一面、均一に散布します。
- ② 前年水稻を作付けしたほ場は、麦わらをすき込むと、稲の初期生育が劣るため、基肥を窒素成分2kg(硫安の場合は10kg)/10a分増肥します。  
※ただし、前年夏作が大豆の場合は増肥しない。
- ③ 耕うん(荒起こし)は早めの時期に、通常より深く耕して麦わらを土中に埋没させます。
- ④ 荒代かきは、トラクターの尾輪跡に水がたまる程度のごく浅水(ベタかき)で行います。  
(代かきは耕うんより浅く行う)。麦わらの浮き上がり防止のため、代かきのときは口

ータリの回転は遅くします。

⑤麦わらが分解される際ガスが発生し、水稻の初期生育に影響を与えることがあるため、水管理でガス害を予防します。

田植え後、除草剤散布までの間は浅水とし、除草剤散布後1週間は湛水します。その後は間断かん水してガス抜きを促進します。



やや長め（20cm程度）に切断



尾輪の跡に水が  
たまる程度

### 【大豆作前の場合】

① 播種ロールの回転に支障がないように麦わらを「細かくカット」し、ほ場一面、均一に散布します（特に、枕部分などにたまらないように）。

② 耕起後降雨に遭うとほ場が乾きづらくなり播種が遅れるため、すき込み・耕起は播種直前に行います。

※早くすき込む場合は、麦収穫直後での、ごく浅めの耕起にとどめ、できるだけ土壌の排水性を維持します。

③ 耕起時の碎土、播種後の鎮圧をしっかり行い、出芽率を高めます。

### ～わらすき込みに関する Q&A～

Q1 わらを焼却せずにすき込んだら、雑草の発生が増えるのでは？

A1 わらの焼却で圃場全体の雑草の発生を減らすことはできません。

佐賀県の試験では、麦わらをすき込んだ方が雑草の発生が減少しています。

Q2 トビイロウンカが多発したときは、稲わらを焼いて死滅させた方が良いのでは？

A2 トビイロウンカは日本で冬を越すことができずに死んでしまうため、わらの焼却と翌年のトビイロウンカの発生量は関係がありません。

Q3 わらを焼却しても、カリやケイ酸といった無機成分はほ場に残るのでは？

A3 無機成分は焼却しても残りますが、有機質資源としての効果が極端に低下し、地力低下の要因になります。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**